



東京都立高島特別支援学校

# 外部専門員通信

Vol.1

令和6年7月3日  
校長 石川 拓



## 外部専門員の活用がはじまりました！

今年度も外部専門員通信を発行します。保護者の皆様に、外部専門員を活用した本校教員の専門性を高める取り組みを紹介していきます。

たとえば「なるべく少ない支援で身の周りのことができるようになるための支援方法を学びたい」「読み書きや計算などの学習効果を高める指導方法や教材の工夫」「支援機器を積極的に取り入れて、コミュニケーションの手立てを増やしたい」など、教員の指導力向上の課題は様々です。児童・生徒の多様な実態に応じた指導の専門性向上を図ることができるように、臨床心理士、理学療法士、言語聴覚士、視能訓練士、歯科医師などの、10職種14人の外部専門員と連携しています。

今号では14人全員の専門領域や役割の説明と、2人の外部専門員の自己紹介をお届けします。

## 外部専門員のご紹介

児童・生徒の自立と社会参加に向けた指導内容の充実を図るとともに、教員の専門性を向上させるため様々な専門職種の人材を招いています。職種とお名前、主な指導・助言の内容についてご紹介します。

理学療法士  
平塚 乃梨 氏

身体機能面（身体の使い方や姿勢等）を評価し、学校生活や日常生活の中に取り入れやすい運動方法や、必要な装具の導入や、適切な介助方法や必要な環境設定も検討します。

作業療法士  
阿部 真理子 氏

生活動作をより良く行えるようにするための環境設定や道具の選定、手指の使い方の練習の段階付けなどを提案・助言します。各種支援機器導入時の操作環境について検討します。

言語聴覚士  
高林 喜美子 氏

文字やことばの獲得や発話・発声を含めたコミュニケーション能力の評価方法と指導方法、認知発達を促すために必要な指導方法、食事場面での嚥下（えんげ）・咀嚼（そしゃく）の評価と指導の専門性向上を図ります。他の言語聴覚士・歯科医師・理学療法士・作業療法士による指導助言と関連付けて、より効果的な学習指導や支援方法について検討します。

言語聴覚士  
田中 伸二 氏

文字やことばの獲得や発話・発声を含めたコミュニケーション能力の評価方法と指導方法、言語表出の促進や不明瞭な発音を改善のための評価と指導方法の提案をします。AAC（音声言語に代わる伝達手段）の考え方を取り入れた支援機器を活用したコミュニケーション支援や、そのための認知発達を促す学習や支援の方法について検討します。

臨床心理士  
大澤 ちひろ 氏

観察・面接・発達検査による評価を通して、個々の発達・成長・独自性・個別性等の固有な特徴や課題を明確化する方法を検討していきます。個々の発達状況に合わせた段階的な指導・支援方法について提案します。

学習アドバイザー  
佐野 幸子 氏

児童・生徒の行動の背景や意味の読み取り方への助言と、児童・生徒自身の望ましい行動を引き出す指導や支援方法について提案をしていきます。教員が支援し過ぎたり制限し過ぎたりすることを減らして、児童・生徒が自己肯定感を高められる指導や支援方法に転換していくことを促します。

学習アドバイザー  
富岡 康一 氏

太田ステージ評価と活用、発達段階に応じた学習課題の提案と指導内容の指導方法への助言・提案をしていきます。個別のケースに応じた、教材作成や授業づくり、段階的な指導方法について検討していきます。

学習アドバイザー  
若杉 哲文 氏

児童・生徒の実態や興味関心に応じた教材・教具づくりや技術指導について助言をしていきます。学習指導場面での教材の使い方等の改善、作業学習の内容（計画）・作業環境の改善、児童・生徒が自立して学習できるようにするための補助具の製作と活用などの授業改善への助言も行います。

視能訓練士  
釣井 ひとみ 氏

三田 真弓 氏

子どもの認知発達に応じた、多様な視力検査（ランドルト環を使った「右」「左」を答える検査や、絵を見て「鳥」「蝶」と応える応答を必要とした検査方法以外の、縞（しま）視標等を用いた視力検査を含む）の方法について検討します。斜視の有無や物の見方の観察、児童・生徒が注目しやすい教材提示の仕方や教材の色などの工夫、視ることを支援する環境設定や配慮についての提案、持っている視覚活用を促す課題の提案をしていきます。

ICTアドバイザー  
海老沢 穰 氏

主にタブレット端末で活用できるアプリケーションやアクセシビリティ機能の活用方法に関する助言を行います。たとえばコミュニケーションや生活場面でのタブレット端末の活用方法、ICT機器のアクセシビリティ機能の活用方法、より効果的に学習できるアプリケーションの紹介や活用方法に関する助言・提案をしていきます。

ICT 機器・支援機器  
アドバイザー  
寺田 真智子 氏

主にタブレット端末以外の ICT 機器・支援機器の紹介と、それらの機器を活用した授業作りや支援方法、AT(アシスティブテクノロジー:支援技術)・AAC を導入した QOL (生活の質) 向上のための提案を行います。支援機器等と児童・生徒のマッチングを検討する方法についても指導助言します。

摂食指導(歯科医)  
西村 滋美 氏

摂食機能の評価に関する指導・助言、安全に食べるための摂食指導全般に関する指導・助言・提案(姿勢、食形態、摂食指導の技術)を行います。

除菌清掃  
アドバイザー  
足立 友秀 氏

作業学習において、サービス系作業種である「除菌清掃」を担当する教員への指導方法に関する指導助言を行います。

## 外部専門員お 2 人の自己紹介です

### ■ ICT 機器・支援機器アドバイザー 寺田 真智子 先生

私は、商社やメーカーでの海外取引勤務を経て、海外取引及び障害者向けコミュニケーション機器の会社で働いています。主な仕事内容は、ユーザーの要望に応じた機器導入の提案、スイッチ適合(その方にとって必要なスイッチを探る)等です。

現在は、意思伝達装置をはじめとしたコミュニケーション機器の知識やノウハウを生かして、肢体不自由特別支援学校、障害者施設などでの ICT 支援に従事しています。その他、展示会企画、コミュニケーション関連の講師等も行っています。外部専門員としては、8年間都内の複数の特別支援学校に勤務し、都立高島特別支援学校とは昨年度から ICT 機器・支援機器アドバイザーとして連携しています。

児童・生徒の障害の状態に合わせて、コミュニケーションをとっていくために使用可能な機器の相談や適合について先生方と一緒に考えていきます。

#### [事例]

1. 視線入力機器全般(視線操作、コミュニケーションシートの編集作成など)
2. iPad、タブレット PC(タッチ操作、スイッチ操作、アプリの使い方)
3. 機器、アプリ、操作スイッチの適合(評価、フィッティングなど)
4. e-スポーツ(任天堂スイッチのゲームを視線、スイッチ等で操作)



## ■ 学習アドバイザー 佐野 幸子（こうこ） 先生

高島特別支援学校保護者の皆様、初めまして。佐野幸子と申します。今年度、先生方と共にお子さんの行動について考え、先生方の指導方法の改善・指導力の向上を目指していきたいと思ひます。

人は何らかの「刺激」によって行動を起こします。

例えば

Aさんが喉が渴いた（刺激）ときに『喉が渴いたね』とBさんに言ひます（行動）。

Bさんは「うん」と返答します（結果）。

するとAさんは怒り出しました（結果が気に入らない）。

この例はAさんが飲み物をほしいということをは伝えたものです。しかしBさんは相槌を打つだけでした。このやりとりにはAさんBさん双方のこれまでの「経験」が大きく影響しています。Aさんは「喉が渴いた」と言ふと、誰かが気づいて飲み物を出してくれたのでしょ。そしてBさんはAさんの発言が飲み物を要求している発言だとは知らない（分からない）ので、「のどが渴いた」ことへの同意を得られようとしていると思ひ「うん」と返答するのみでした。

このように私たちの日常には、行動を起こす前に必ず何らかの「刺激」が存在します。

その刺激に応じて、これまで学習してきた「行動」を起こします。

ある刺激に対してどのように反応することが良いのか、人に反応してもらふために、どのような刺激を与えると良いのかなど、普段何気なく私たちが与えている刺激を整理し、子どもたちに「伝わる」刺激として届けること、そしてその刺激に対して望ましい行動ができたときには、大いに称賛をすることで子供は自分がしたことが良いことなのだと思ひできます。

これからこのようなことを先生方と共有し、お子さんの行動改善を支援していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。



### 【問い合わせ】

東京都立高島特別支援学校

Tel 03(3938)0415

副校長 渡部 早苗

研究研修部 鈴木 悠介